

院長 コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

52

残薬



市民病院
院長 神谷里明

病気や怪我で病院や医院から処方された薬を、皆さんはすべて内服し、使っていますか？棚や、箱の中に薬が残っていませんか？日本中で余分な薬が家に眠っており、その額は年間に数百億円分とも言われています。

臨時で受診したときに処方された薬も症状が軽快すれば必要のない薬もあります。処方するときは、できるだけ無駄にならないように必要量を出していますが、症状が長引いたときのために少し多めに処方を希望する場合もありますか？余分な薬を持っているよりも症状が長引くようであれば再度の受診が望ましいと思います。薬によってもありますので、急に受診できないときのために数日分余分に持っていることは必要かもしれませんが、1週間以上余分な薬を持っている必要はありません。

ん。

高齢になり様々な病気を持っている人が増え、病名が増えるとそのたびに薬が増えていきます。同じところを受診していれば、医師もどんな薬が処方されているかわかりますが、複数の医療機関を受診していると同じような薬が重なることもあります。そのことを改善するためにお薬手帳があります。複数の医療機関に受診していても、今その人に処方されている薬がすべて1冊のお薬手帳に記載されていれば、受診時にその手帳を見せることにより、医師は同じような薬や同時に使っていない薬がわかります。また薬をもらうのも1力所の薬局に決めていけば、そこで薬剤師による確認もできます。かかりつけ薬局です。

また、抗菌薬の不必要な使用や過剰投与により、抗菌薬の効かない多剤耐性菌と呼ばれる菌が増えていることが問題になっています。一般的には風邪には抗菌薬は必要ありません。痛み、鼻水、咳などの症状を抑える薬は必要でも、はつきりした細菌による症状がなければ抗菌薬の効果はなく、逆に副作用が起きる可能性もあります。人間だけでなく、家畜にも多くの抗菌薬が使用されています。世界的に見れば、薬の効かない多剤耐性菌が増えることの弊害の方が問題となっています。今一度その薬が必要かどうか考え、余分な薬はもらわないようにしていきますか。